

6月14日(土)・15日(日) 神輿渡御 ルートマップ

三社祭の歴史

浦安には、清瀧神社(堀江)、豊受神社(猫実)、稻荷神社(当代島)の三社があり、旧くは10月に各氏神様の大祭として、神楽の奉納や豊年祭りが行われていました。

神輿の登場は大正時代で、この時代から祭りの中心は、三社が合同で行う6月(14、15、16日)の大祭となり、それにともない10月の祭礼は次第に行われなくなり陰祭りと姿をかえています。4年に一度の開催もこの頃からといわれています。

かつては、他地区的神輿と衝突したり、寄付金の少ない商店や民家に突入するなどの激しいお祭りで、その荒っぽさから喧嘩神輿、暴れ神輿と呼ばれたこともあります。

「マエダ、マエダ」という掛け声や、「マワセ、マワセ」の声とともに神輿を低く下げて回転させる地擦りと神輿を高く放り上げる担ぎ方は独特のものです。

昭和30年代に様々な理由から、一時中断していましたが、昭和49年に復活し、6月15日前後の土曜日・日曜日に行われるようになりました。

元々、10月に行っていた大祭を6月に行うことから「浦安三社臨時大祭」と呼んでいましたが、平成12年の大祭から名称を「浦安三社祭」に改めました。

三社祭は神社の神輿(堀江2基、猫実2基、当代島2基)のほか、100基以上の神輿や山車が町中を練り歩く盛大な祭りであり、神事としてだけでなく地域をあげての一一大イベントとしても定着しています。



宵宮

大祭前夜を「宵宮」といいます。

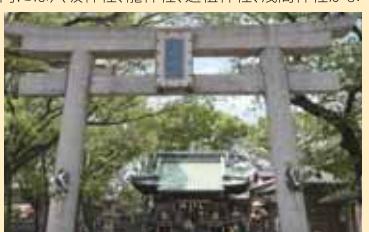
清瀧神社、豊受神社、稻荷神社には神輿に神様の魂を入れる「御魂入れ(入魂祭)」の儀式を行うため町内の神輿が集まっています。

宮司が一基一基の神輿にお祈りをし、お札を入れます。お札は神様の魂であり、これを入れて神輿が神様になると言われています。

御魂入れは、全ての灯りを消した境内で行われます。

清瀧神社 (堀江)

堀江4丁目1番、宮前通りに面して、みどりの木々に囲まれたなかなか趣のある神社。建久4年(1196年)の創建と伝えられている。ご祭神は大綿積神(おおわたづみのみこと)で海の神である。したがって漁の安全と豊漁を願う浦安の人たちにとくに崇められた神社である。今日では広く氏神様として崇敬されている。境内には八坂神社、龍神社、道祖神社、浅間神社がまつられてある。本殿は1982年に市の有形文化財に指定された。棟梁肥前松五郎が1855年に作ったとされる櫛の大木からなる立派なものであるが横に回らないと拝観できないのが惜しい。



豊受神社 (猫実)

猫実3丁目、大三角線沿いにある神社で、境内も広く樹齢400年に近い大銀杏があることで知られる。保元2年(1157年)の創建といわれ、ご祭神は豊受姫大神(とようけひめのおおかみ)で、神話によると天照大神が天界から地界に降りてくるとき、豊受姫大神より五穀の種を受け取り、広めたといわれている。

清瀧神社がどちらかというと漁業をつかさどるのに対して、豊受神社は農業をつかさどる神様とされている。現在は地元の神社として幅広い氏神様として崇められている。現在の社殿は昭和49年に造られたもので、それまでたびたびの水害で社殿が流されその都度再建された。

境内には三峰神社、浅間神社、風の神と津島神社を祭る祠、金毘羅大権現の石祠、秋葉大権現の石祠がある。富士塚もある。神輿が2基あり担ぎ棒は塗りと白木がある。



神輿渡御

おすすめスポット 徒步で見学してください



1 船堀緑道～福荷神社前

14(土) 18:00頃
15(日) 18:00頃
人もぎっしりと神輿に付き、熱い思いが凝縮しボルテージも最高、この雰囲気ははずせない。

2 当代島保育園前の通り(福荷神社)

14(土) 13:30頃
15(日) 13:30頃
宮神輿を先頭に当代島地区の大小の神輿が連なり盛り上がる。

3 浦安駅付近(福荷神社)

15(日) 14:00頃
普段人が歩けないやなぎ通りの車道を多くの人が埋め尽くす様子は、一見の価値あり。

4 浦安駅付近(豊受神社)

15(日) 16:00頃
やなぎ通りが人であふれ、見る人も担ぐ人もヒートアップ、見逃しちゃ損。

5 猫実5丁目西水門付近(豊受神社)

14(土) 15:30頃
15(日) 15:30頃
川沿いの神輿の列は圧巻。また浦安橋下は担ぎ手の声が反響しあい、いやがうえにも盛り上がる。

6 大三角線～豊受神社前

14(土) 18:00頃
15(日) 18:00頃
宵宮の宮出しはもちろんのこと、最終日の宮入りでは、担ぎ手の熱気は、最高潮に達する。

7 宮前通り～清瀧神社前

14(土) 18:00頃
15(日) 18:00頃
鳥居と神輿が重なる雰囲気は最高、祭りへの気合がクライマックスを迎える。

8 江川橋から大三角線付近(清瀧神社)

15(日) 15:00頃
江川橋に向かって、境川沿いに進んでくる神輿と人の波は圧巻！

9 さくら通り(清瀧神社)

15(日) 11:00頃頃
宮神輿を先頭に堀江地区の大小の神輿が連なり盛り上がる。

稻荷神社 (当代島)

当代島3丁目にある神社である。

船堀緑道前に石の鳥居があり赤い社殿はなかなかのものである。祭神は豊受大神(とようけひめのおおかみ)で当代島の氏神として崇められている。創建はあまり定かではないが、元禄2年(1689年)小岩の善養寺から移されたといわれている。今の本殿と拝殿は空襲で焼失の後昭和34年に再建されたが、昭和58年に地盤沈下による改修が行われ、社殿も建て替えられた。

境内には大鯨の御社という碑がある。明治8年にこの近くに迷い込んだクジラを捕まえて大金を稼いだ漁師が建てたといわれている。浦安の文化財になっている。ここにも富士塚がある。昔この神社の石を拾うと天然痘に効くというのでずいぶんにぎわったそうである。神輿は2基あり、当代島の氏子によって守られている。



最近、1872年に測量調査に使われた、堀江水準標石が再発見され、近代測量のメルクマークとして現場で飾られている。

神輿は2基あり大正12年に塗りの神輿、昭和4年に白木の神輿が造られた。屋根は八棟造りで日本でも数が少ない神輿である。